

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする 児童生徒の指導・支援に関する研究 —多様な学びの場ガイドブック作成—

研究の背景

多様な学びの場に関わる現状の把握

- 国際的な障害観の転換
 - ・障害の捉え方が「医学モデル」から「社会モデル」へと転換され、多様性を前提とした社会の在り方が重視されるようになってきている。
- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築
 - ・障害のある子どもと障害のない子どもが同じ場で共に学ぶことを可能な限り追求するとともに、個別の教育的ニーズに最も的確に応えることができるよう連続性のある「多様な学びの場」の提供が必要とされている。
- 学校支援を通じた現状把握から
 - ・これまでの特別支援教育の実践を通して、特別な配慮を必要とする子どもの困難さを改善したり軽減したりする取組やその子の困難さに配慮した授業づくりが進んできている。一方で、次のような課題も散見された。
 - ◇困難さの背景要因を十分に捉えきれず、学級経営や授業づくりに支障が生じている状況
 - ◇授業そのものの質の担保や特別な配慮を必要とする子どもを含んだ集団づくりの視点が不十分

研究の目的

- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の視点から、通常の学級及び通級指導教室等多様な学びの場の在り方を明らかにするとともに、通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習を進める上での要点を明らかにし、ガイドブックとしてまとめる。

研究の内容

(方法)

- ・文献研究、先行研究による特別支援教育の動向の把握
- ・通常の学級、通級指導教室、特別支援学級に関する訪問調査による情報収集
- ・研究協力委員会における情報収集

(成果)

- ・従来の特別支援教育が重要視してきた個に焦点を当てたアプローチに加えて、共生社会の担い手を育成する視点からの通常の学級における集団づくりの必要性

次年度に向けて

1年次の研究内容を反映したガイドブックの作成

- 「多様な学びの場ガイドブック～共生社会の担い手の育成を目指して～（仮題）」
- ・通常の学級における多様性のある学級経営や授業づくりについてのポイントや実践紹介
 - ・共生社会の担い手を育成する視点からの「多様な学びの場」、交流及び共同学習の指導の実際
 - ・切れ目のない支援を行うための連携の在り方 等